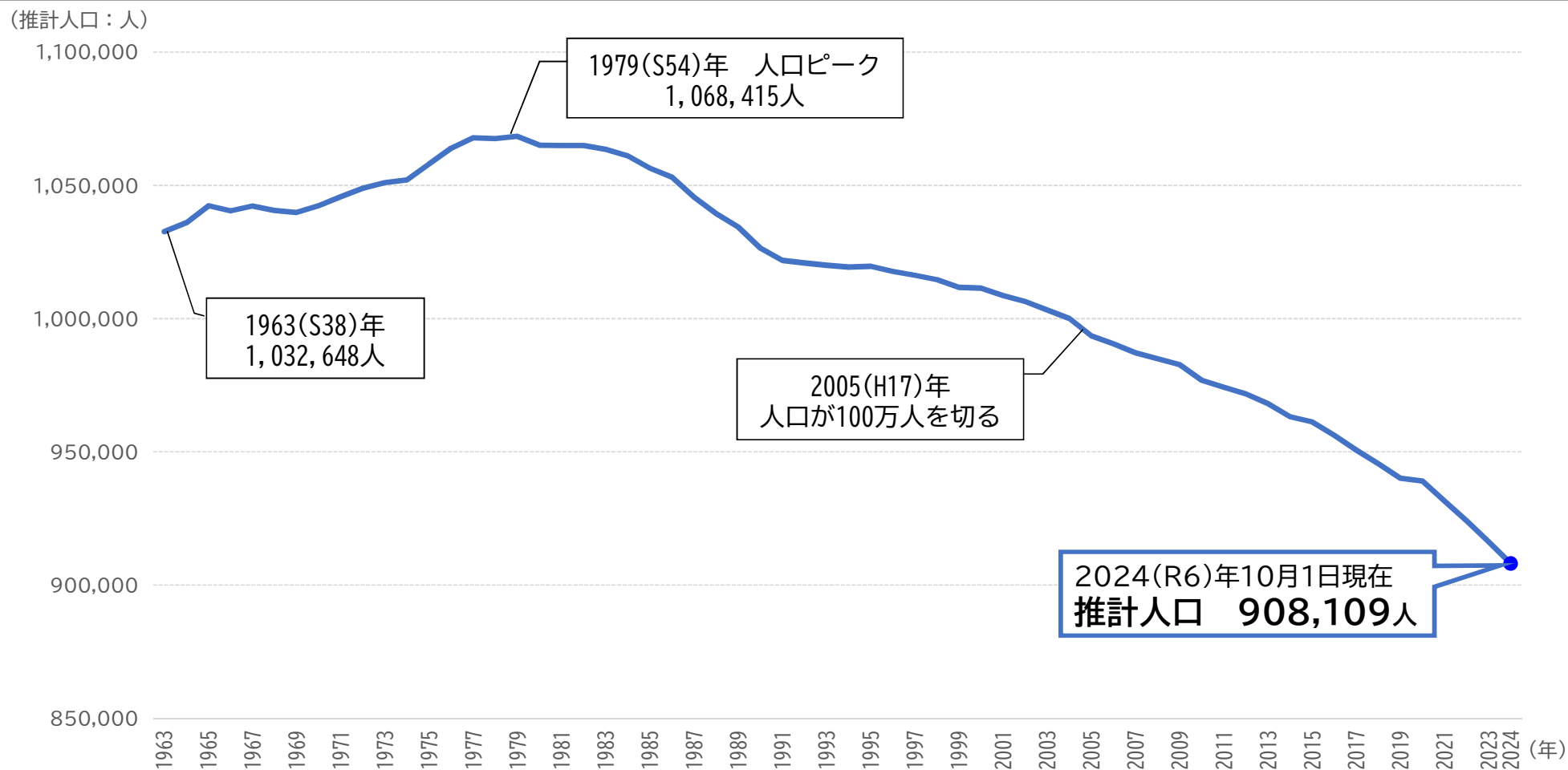


# 北九州市の人口推移等について

## ■北九州市の推計人口の長期推移

➤ 北九州市の推計人口は、1979(S54)年をピークに減少しており、2024(R6)年10月1日現在の推計人口は 908,109人となっている。

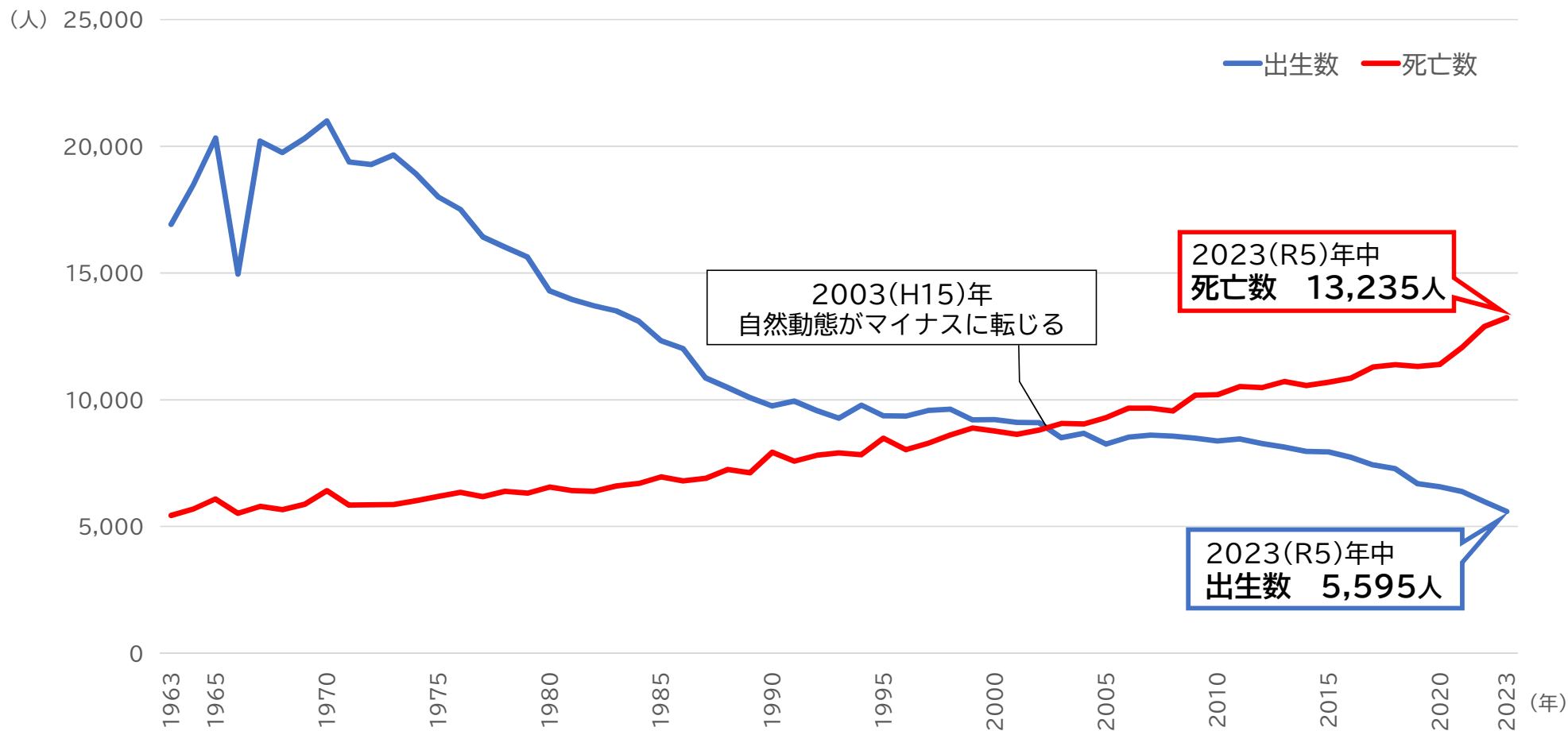


※数値は各年10月1日現在

出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■北九州市の出生数と死亡数の長期推移

- 少子高齢化の影響により、出生数は減傾向、死亡数は増傾向にある。
- 2023(R5)年の出生数は5,595人で過去最少、死亡数は13,235人で過去最多となっている。

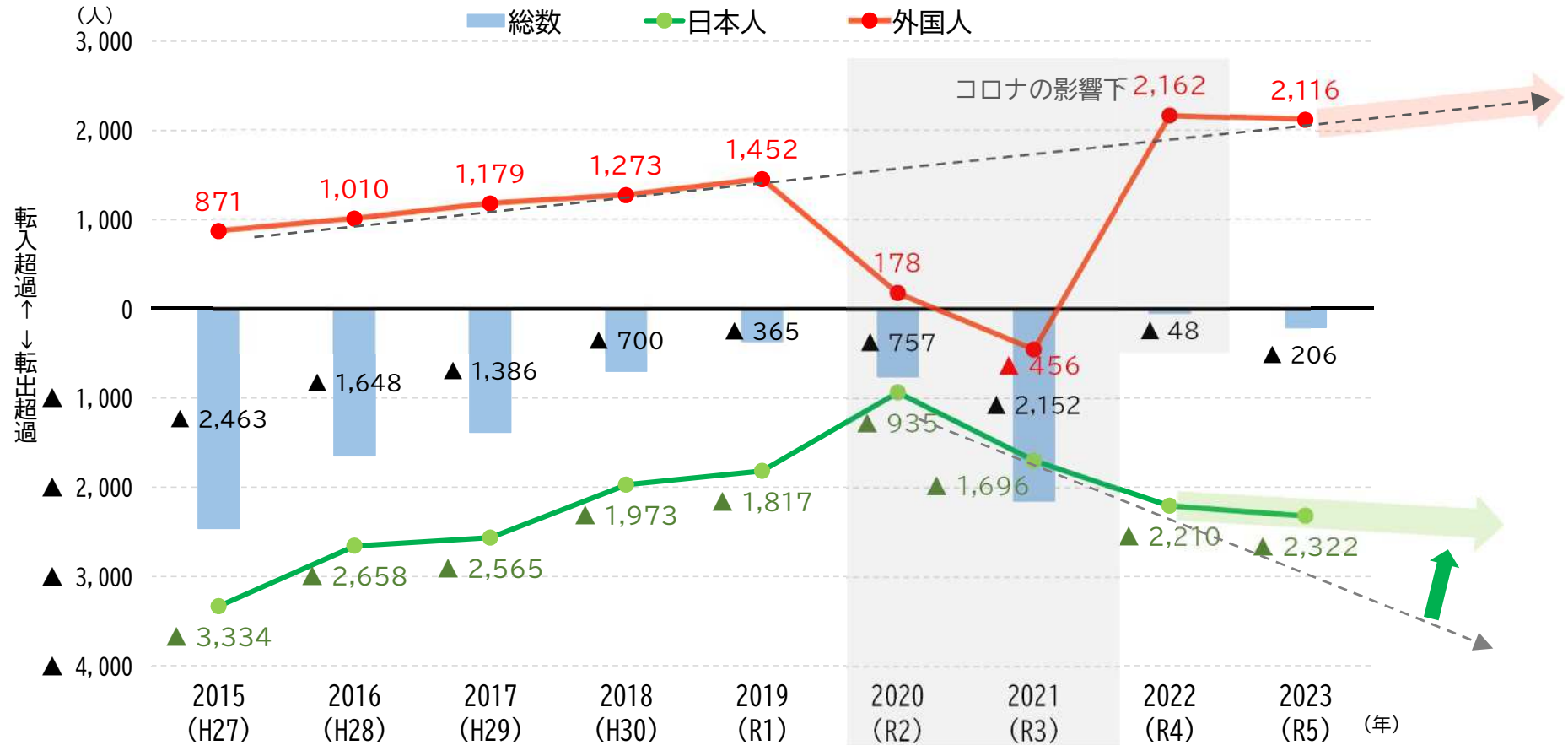


※数値は各年中における合計値

出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■直近(2015～2023年)における社会動態の推移(日本人・外国人合計)

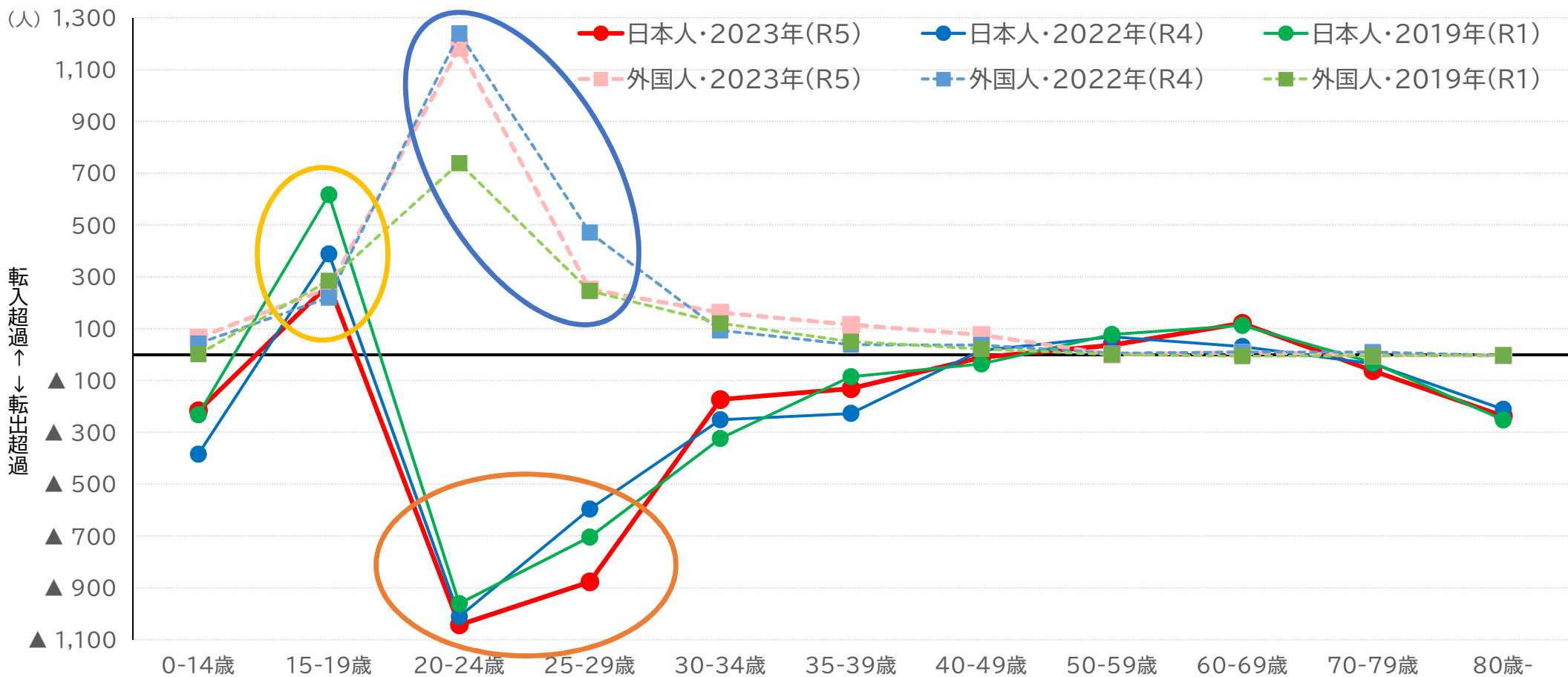
- 2023(R5)年の社会動態は▲206人で、直近10年間で2番目に改善した数値となっている。
- 内訳としては、外国人が+2,116人となっており、コロナの出国制限のあった2021(R3)年を除くと、転入超過が続いている。
- 一方、日本人は▲2,322人となり、2022(R4)年から転出超過は増加したものの、コロナ以降(2020～2024年)、大幅な転出超過の増加が続いていた状況から、転出超過の増加幅は改善している。



出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■直近における年代別社会動態(日本人・外国人別)

- ▶ 日本人については、市内に10大学が立地すること等により、15-19歳が転入超過となっている一方、20代の転出超過のマイナス幅が大きくなっている。
- ▶ 外国人については、20-24歳が転入超過のプラス幅が大きくなっている。

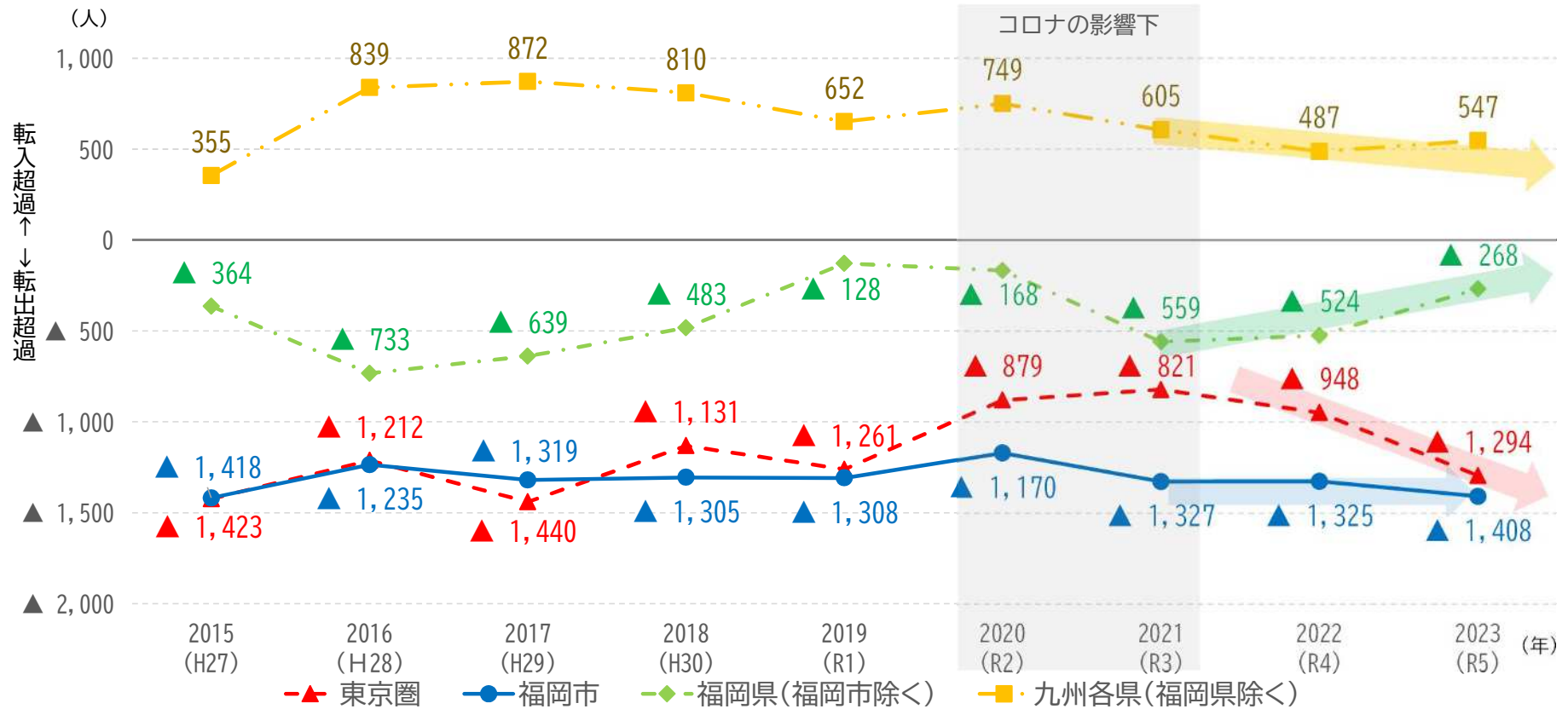


出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■主要地域別の社会動態の推移(日本人)

- 東京圏への転出超過は、コロナの影響下で縮小傾向にあったが、2022(R4)年から拡大傾向にある。
- 福岡市への転出超過は、▲1,100人～▲1,400人台の転出超過が続いており、概ね横ばいで推移している。
- 福岡県内(福岡市除く)への転出超過は、2022(R4)年以降、縮小傾向にある。
- 九州各県(福岡県除く)からの転入超過傾向は続いているものの、転入超過は縮小傾向にある。

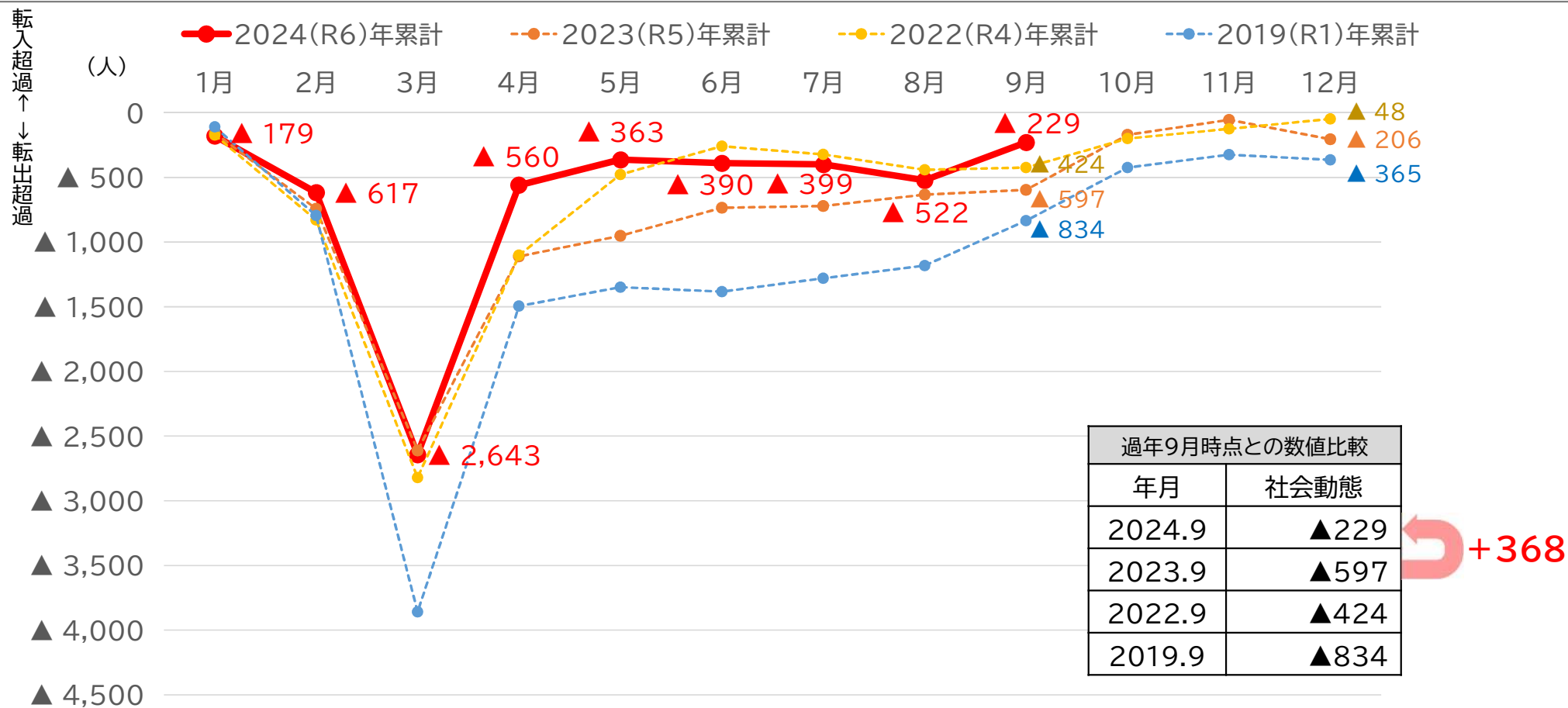
※東京圏…東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県



出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■2024(R6)年1～9月の社会動態(日本人・外国人合計)

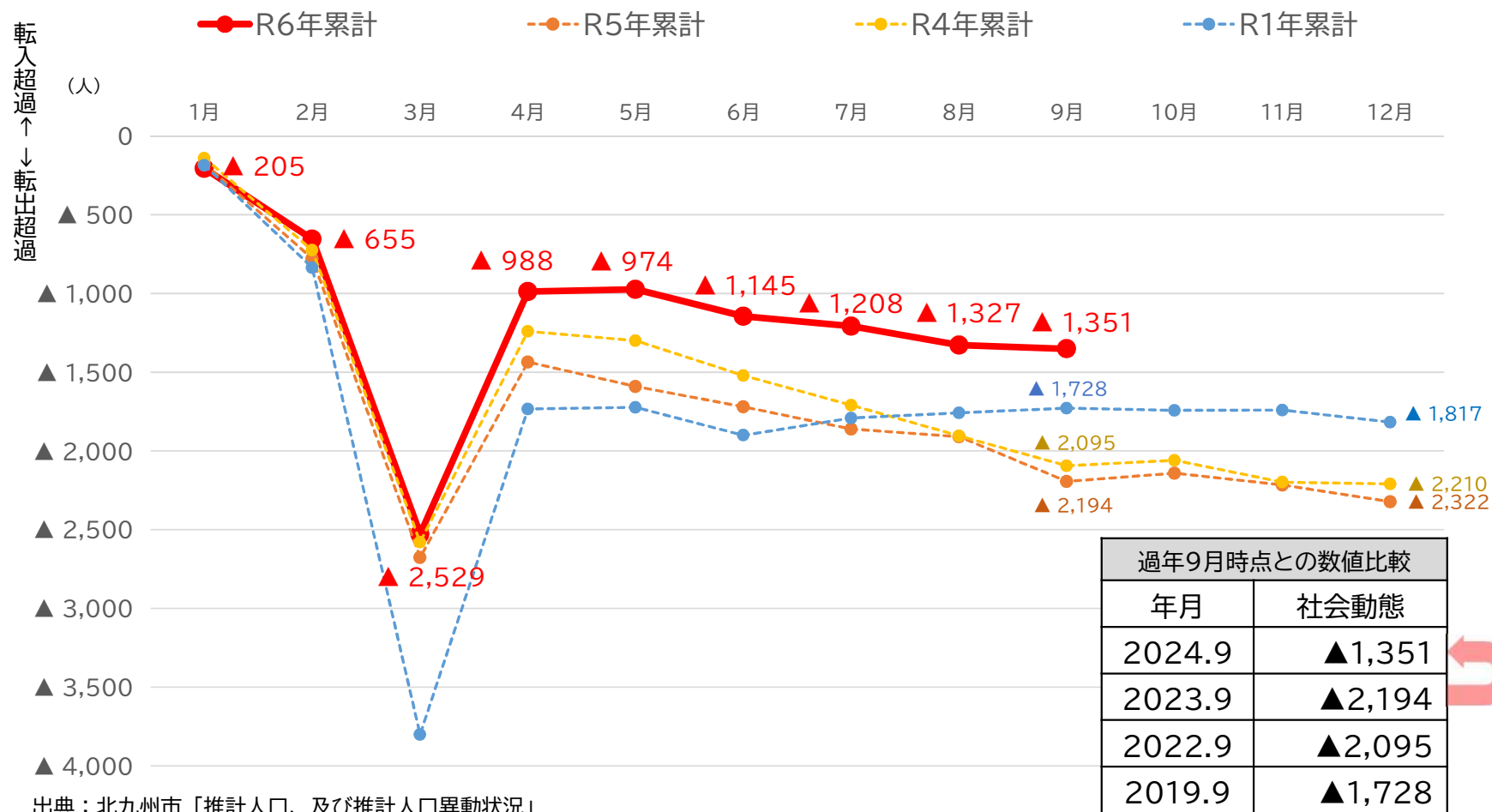
- 2024(R6)年の社会動態は、9月の段階において、▲229人(対前年同月比+368)となっており、過年との比較においても改善が見られる。
- その内訳として、日本人の社会動態の改善が寄与している。



出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## ■2024(R6)年1～9月の社会動態(日本人)

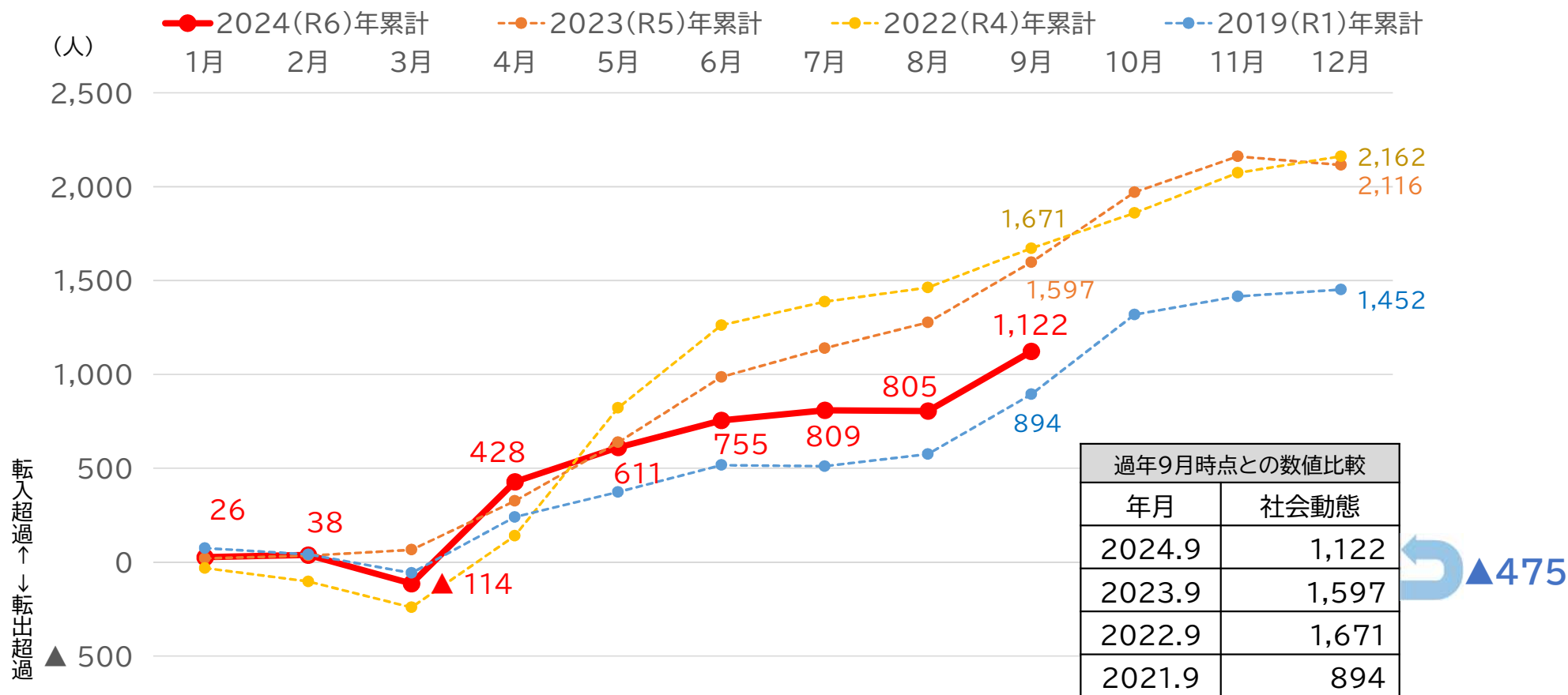
- 2024(R6)年の日本人の社会動態は、9月の段階において、▲1,351人(対前年同月比+843)となっており、過年との比較で大きく改善している。





## ■2024(R6)年1～9月の社会動態(外国人)

- 外国人については、転入超過の状況が続いており、市内の外国人数も増加傾向が続いている。
- 一方、9月の段階の社会動態は、1,122人(対前年同月比▲475) となっており、前年・前々年を下回る状況で推移している。



出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

## 外国人数の状況(在留資格別)

- 市内の外国人数は増加傾向にあり、2023年9月からの直近1年間で **1,200人**増加している。  
(2023.9末:15,497人 → 2024.9末:16,697人)
- 在留資格別では、「留学」や、就労可能な「技能実習」、「特定技能」などが増加している。
- ➡ いずれもコロナ前の水準以上まで回復している。

